

市原市文化団体連合会 会長
華道家 市原市茶華道協会 代表
関本 清人 さん

対談テーマ

文化でまちを豊かに

華道家として、また今月号の「まんなか」(16ページ)で紹介する市原市文化団体連合会の会長として文化の魅力を伝え続ける関本清人さん。文化芸術を通じた心豊かなまちづくりへの思いと、人と人をつなぎ、未来へ受け継ぐ願いを伺います。



花を通して人と心がつながる

市長 華道との出会いは、どのようなものでしたのでしょうか

関本 私は、祖父、父から続く3代目になります。父と母が夜遅くまで華道の仕事をする中、手伝い始めたことがきっかけでした。もともと自然が好きで、植物が持つ個性や美しさに触れ、自分の感性で花を生ける楽しさや人に伝える喜びを知ったんです。気がつけば、長くこの道を歩んでいました。

市長 花を通じて、海外とも交流された経験もあるそうですね。

関本 県の文化使節団の一員として米国を訪れたとき、言葉や考え方が違って、花を通じて心がつながり、親しくなることを実感しました。花は、国や世代を超えて人と人を結んでくれます。華道

は美しいだけでなく、心を通わせる文化なのだと思います。

伝統と新しい文化をつなぐ

市長 文化団体連合会として、大切にしていることは何ですか。

関本 受け継がれてきた伝統文化は、もちろん大切です。一方で、若い世代は新しい文化を生み出しています。伝統を守るだけでなく、新しい文化も受け入れながら、世代を超えたつながりを育むことが大切です。市原市には地域ごとに個性があります。その魅力を生かし、市民の皆さんがまちを誇れる文化をつくりたいと思います。

市長 文化は、暮らしや人の心を豊かにする力も持っていますね。

関本 令和元年の災害後には、そうこう千葉店などと協力して復興フェアを開催しました。花市場に出荷できなくなった花も活用し、多くの方に届けました。花は「自然の救急箱」ともいわれます。人に安らぎを与え、前を向く力にもなると感じています。

市長 今年8月の豪雨でも、多くの方が不安な日々を過ごされました。市として生活再建に全力で取り組みことはもちろんですが、花や文化には人の心を癒やし支える力があると改めて感じています。

文化を次の世代へつなぐ

市長 文化を未来へつなぐために、どんな活動をされていますか。

関本 希望する小学校に講師を派遣し、華道や和太鼓、短歌などの伝統文化を体験してもらっています。たった一度の体験でも記憶に残ります。その記憶が感性を豊かにし温かい心を育みます。自分の中に文化の柱を持つことは、世界へ踏み出す力になると思います。

市長 文化との出会いが、未来への一歩になるんですね。多くの方に体験してほしいと思います。

関本 私たちは市原市文化祭などでたくさんの方を開いて、市民の皆さんをお待ちしています。興味を持った扉から、ぜひ文化芸術を体験してほしいと思います。まずは一歩を踏み出してください。

市長 文化との出会いが、一人一人の心を豊かにし、まちの魅力を育むと感じました。文化芸術を通じて、心豊かなまちをつくりたいです。



PROFILE 華道家。3代にわたり華道を受け継ぎ、花を通じて人と人をつなぐ。市内外で文化の魅力を伝え、文化の継承に努める



▲関本さんの作品